



## 展覧会概要

中国では、文房（書齋）で用いる硯・筆・墨・紙の四つの文房具のことを「<sup>ぶんぼうしほう</sup>文房四宝」と呼び賞翫していたように、文房具は単なる実用品ではなく、美術工芸品としての鑑賞価値も求められました。高級官僚である文人たちは、自らの文房で詩文を書き、書画を鑑賞し、<sup>きん</sup>琴を奏で、香を<sup>た</sup>炷いて心身を清めるとともに、選りすぐりの文房具を飾って愛でて、豊かなひと時を過ごしました。

大名道具でも文房具は欠くことはできません。広間<sup>たんげい</sup>などの付書院<sup>ついでん</sup>には主に唐物の文房具が並べられ、執政の空間を飾りました。そこに求められたのは端溪<sup>たんけい</sup>の硯や、堆朱<sup>たいしゆ</sup>の装飾筆、あるいは古墨など、貴重で格の高い文房具でした。

本展覧会では、尾張徳川家の伝来品を中心に、大名文化を彩った文房具の魅力に迫ります。

## 展覧会基本情報

- ◆展覧会名 企画展 徳川文房博
- ◆会場 名古屋市蓬左文庫展示室
- ◆会期 2023年1月4日（水）～1月29日（日）
- ◆開館時間 午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
- ◆休館日 月曜日（但し、1月9日（月・祝）は開館、翌10日（火）は休館）
- ◆観覧料 一般1,200円 高・大生700円 小・中生500円  
※20名様以上の団体は一般1,000円 高・大生600円 小・中生400円  
※毎週土曜日は高校生以下無料
- ◆作品数 134件予定（うち、国宝1件・重要文化財1件）
- ◆主催 徳川美術館 名古屋市蓬左文庫 毎日新聞社

## 取材について

**展覧会開催期間中、随時ご対応させていただきます。**

展覧会取材のほか、特定の出展作品の取材も可能です。

動画撮影につきましては開館時間外も対応いたしますので、お気軽にご相談ください。

# 一、日本にもたらされた中国の文房具

「文房」とは中国の言葉で「宮中で文書を司る房室・官職」を意味した。のちに学問をよく修めた高級官僚である文人の書斎を指し、文房で備えられ、賞翫された筆記具をはじめとする諸道具を「文房具」と呼ぶようになった。

中国の文房具が、日本の武家に欠かせない道具となったのは室町時代からである。中世の禅宗寺院で僧侶たちが書を読む際の出窓が起源であった付書院が、武家屋敷の典型様式である書院造に設けられると、そこに文房具が飾られた。特に、室町将軍家の文房具飾りが、「書院飾り」として武家の室礼の規範となり、希少な中国の文房具を飾ることが権威付けになったのである。



**高麗紫石硯 大名物**  
家康の遺産「駿府御分物」として義直へ伝えられた硯である。



**箔絵龍文軸筆 銘 大明万曆年製**  
筆管（筆の柄）に「大明萬曆年製」の文字を入れ、浪が逆巻く上空に雲龍の図柄を、金箔を貼る「箔絵」の技法で表す。



**古銅兩龍形筆架**  
内箱に「家康様御直二被進候 あまりやう 御筆架」とあり、生前の家康から義直へ直接与えられた品として伝えられている。

## 二、文房清玩

文房は、文人の必修教養であった「書・詩・画・篆刻」の修練の場であったが、それだけではなく、茶を喫し、香を炷き、琴を弾き、また、青銅器や奇石などを客人と鑑賞する場でもあった。煩雑な政務、俗世から離れて、心身を清めた文房では、文人たち選りすぐりの文房具が愛玩された。ここでいう「文房具」とは筆記具だけでなく、喫茶具・酒器・香道具・花器・古琴・玉器・青銅器・奇石など、文房で賞翫された全ての品を指す。良質良材を選び、工芸技術の粋を集めて作られた文房具は、文人たちの美意識を反映するとともに、文人としての教養・品格・精神性の高さを示す道具でもあった。



**螺鈿挿花図軸盆**  
朱漆銘 大明皇慶年製  
黒漆地に青と赤に発色する夜光貝が巧みに使い分けられ、繊細である。高台内に「大明皇慶年製」の朱漆書があるが、皇慶年間（1312～13）は中国・明時代ではなく、元時代の年号であり、日本で記されたとみられる。



**龍香御墨**  
左：大明宣徳年製  
中：大明万曆年製  
右：大明隆慶年製  
尾張徳川家伝来の墨は500挺を数え、世界有数のコレクションとして知られる。大半は中国・明時代の墨で、中でも「龍香御墨」と称される皇帝用の墨は様々な時代の品が29挺も残されている。



**白玉石葵花透彫水盂（筆洗）**  
水盂とは、揮毫のために浄水を貯めておく器で、附属する小さな杓で碗に水を移して用いるほか、筆の穂先を濯いで墨を落とす筆洗を指すことがある。この水盂は口が広く開いており、杓が附属していないため、筆洗として用いられたと考えられる。

## 三、和物文房具

良質な硯材や印材が豊富で、彫漆などの工芸技術も優れていた中国の文房具は、日本では最上品として珍重される一方、日本独自の文房具も様々に作られた。机と椅子を用いる宋時代以降の中国の生活様式とは異なり、畳など床上で生活する日本では、文台や見台といった床に坐して用いる独自の形状の文房具が発展した。また、硯や墨、筆などを一括で持ち運ぶことができる硯箱も、机を常設としない日本式の生活様式では重宝され、鎌倉時代以降の意匠を凝らした多くの名品が残されている。大名家では、基本的には唐物文房具は書院などに飾られ、和物文房具は日常で使用されるほか、婚礼調度などハレの道具として、時に実用性を度外視した豪華な装飾が施された。



**国宝 初音時絵文台・硯箱**  
硯箱の内側には硯・銀製の水滴・墨挾・筆・錐・刀子が納められている。細い錐や刀子にまで時絵を施し、金具は銀で作るなど、贅を尽くした硯箱である。

## 展覧会関連企画

### ◆土曜講座「文房清玩―尾張徳川家に伝来した唐墨を中心に―」

日時： 2023年1月7日（土） 午後1時30分～3時（開場：午後1時）  
講師： 四辻 秀紀（特任学芸顧問・名古屋経済大学特別教授）  
定員： 60名 ※事前申込制ですすでに満席/空席がある場合のみ当日受講可  
会場： 講堂  
受講料： 800円（入館料別途必要）

### ◆新春企画「徳川美術館で書き初め」

日時： 2023年1月8日（日）  
①午前の部：11時～12時（開場：10時30分）  
②午後の部：2時～3時（開場：1時30分）  
講師： 川崎尚麗氏（毎日書道展審査会員）  
定員： 各部20名 ※事前申し込み制・先着順  
会場： 講堂  
参加費： 1,000円（入館料別途必要）

#### <申込方法>

往復はがき・FAXまたはE-mailで、氏名・住所・電話番号・FAX番号・各種会員（賛助会・友の会・大学メンバーシップ<学校名>）・年齢・参加人数を明記の上、下記へお申し込みください。

#### <申込先>

〒461-0023 名古屋市東区徳川町1017  
徳川美術館  
「書き初め」係または「筆から楽しむ書」係  
FAX：052-935-6261  
E-mail：taiken@tokugawa.or.jp  
問い合わせ TEL：052-935-6262

### ◆「筆から楽しむ書」

日時： 2023年1月22日（日） 午後1時30分～3時（開場：午後1時）  
講師： 加藤 裕氏（毎日書会道評議員）  
定員： 50名 ※事前申し込み制・抽選  
会場： 講堂  
参加費： 1,500円（入館料別途必要）

### ◆「学芸員の見どころトーク」

日時： 2023年1月14日（土） 午後2時～2時30分（開場：午後1時30分）  
講師： 薄田大輔  
定員： 60名 ※先着順  
会場： 講堂  
参加費： 無料（入館料別途必要）

## 視聴者・読者プレゼント提供

企画展「徳川文房博」を、ぜひ御社媒体にてご紹介ください。  
画像を1点以上使用してご紹介いただいた場合、視聴者・読者プレゼントとして本展覧会のご招待チケット（非売品）を、1媒体5組10名様にご提供いたします。

## お問い合わせ 取材は随時お受けいたします



[報道関係対応窓口] 徳川美術館 管理部  
吉川 由紀 yuki@tokugawa.or.jp  
竹内 大知 d.takeuchi@tokugawa.or.jp

〒461-0023 名古屋市東区徳川町1017  
TEL：052-935-6262（10時～17時受付）  
052-935-8222（営業時間外受付）  
FAX：052-935-6261

企画展 徳川文房博

広報画像申請書 使用期間：～2023年1月29日



①龍香御墨 大明万暦年製  
中国・明時代 万暦年間（1573 - 1620）  
徳川美術館蔵



②古銅兩龍形筆架  
徳川家康・徳川義直（尾張徳川家初代）所用  
中国・元時代 14世紀  
徳川美術館蔵



③箔絵龍文軸筆 銘 大明万暦年製  
徳川義直（尾張徳川家初代）所用  
中国・明時代 万暦年間（1573-1620）  
徳川美術館蔵



⑤国宝 初音時絵文台・硯箱  
江戸時代 寛永16年（1639）  
霊仙院千代姫（尾張徳川家2代光友正室）所用  
徳川美術館蔵



④高麗紫石硯 大名物  
古田織部・徳川家康（駿府御分物）  
徳川義直（尾張家初代）所用  
中国・南宋時代 13世紀  
徳川美術館蔵

使用媒体

放送日・発売日

プレゼント提供 希望する ・ 希望しない

貴社名

ご担当者様

データ送付先アドレス

ご連絡先電話番号

[ご利用にあたっての注意事項]

- ・画像のご利用は本展覧会の紹介用途のみに限ります。
- ・部分アップのトリミング、色変更等の加工はご遠慮ください。
- ・二次利用不可です。
- ・画像には最低限「タイトル」と「所蔵」のクレジットを明記してください。
- ・内容確認のための校正原稿をお送りください。
- ・ご掲載誌、DVD等を1部「徳川美術館 管理部 広報宛」でお送りください。



〒461-0023 名古屋市東区徳川町1017

TEL : 052-935-6262 (10時～17時受付)

052-935-8222 (営業時間外受付)

FAX : 052-935-6261

担当：吉川 yuki@tokugawa.or.jp

竹内 d.takeuchi@tokugawa.or.jp